

授業改善書

| | |
|-----|-------|
| 科目名 | 教育方法論 |
| 担当者 | 浦野 弘 |

授業の概要

授業を設計-実施-評価するために必要な知識や技術を習得することを目的とし、わかりやすい授業を設計する方法論、とりわけ学校における授業内のコミュニケーションを支援する環境や方法（ティームティーチングや習熟度別学習等）、学力向上に向けた取り組み、教育メディア等の活用に関する諸理論や実践記録を検討することを通して、教える（子どもが学ぶ）ための方法や技術について考える。また、学習指導案の作成及び模擬授業を行い、教師として授業を行う基礎的な知識や技術を習得する。

授業の問題点

ほぼ同一のテーマで、小学校向けと中高向けの2つの講義を開講しているが、出席状況以外は、0.5~1.5ポイントほど中高向けの方が低い得点である。中央値で比較すると、小学校向けは一つの項目を除いて4であり、中高向けでは2が多い。次時の課題意識を持たせるために、テキストを読んでもくる宿題を課しているが、中高向けでは「授業外学習（予習や復習など）」の得点が低く、動機付けが不十分と言える。さらに、宿題を前提に講義を進めているため「教員の説明」等の得点が当然低くなったものと思われる。一方、小学校向けではその逆の傾向が読み取れる。受講目的に多少の違いはあり得るが、興味関心が持続できるようにテキストを読むという動機付けを、使い分けることが重要と思われる。

学生の授業満足度

満足度の中央値は小学校向けでは4であり概ね効果があると言えるが、中高向けでは2とその満足度は低い。前述のように受講生の学びに向かうスタンスが異なるので、同一の動機付けではなく、そのニーズや興味関心に即したものに工夫が必要であろう。

必ずしも多くないが、毎終了時に書かせている大福帳（コミュニケーション・カード）に関して、「何を学んだのかを振り返ることができる」「前時が思い出せる」「先生のコメントでどれだけ自分のことを考えてくれているかが分かる」等の肯定的な指摘があった。また、動画による映像提示にはについても肯定的な意見が見られた。

授業改善の課題と方策

アクティブラーニングや反転授業が求められているところであり、次時の講義に向けての「予習」である「テキストを読んでもくる」という課題は堅持したい。そこで次年度には、中高向けにおいては、これまでの授業時の配布物を予習用に改善し、予習の焦点化を進めてみたい。また、両講義共に、学校現場での実情が実感できるように、具体的な映像事例や学生の生活経験に即したイメージ化できる事例をより多く提示し、それにもとづく議論が行えるような講義形態を構築するような工夫を取り入るよう努める。

その他